

5種の分析モデル図による 学力調査が求めた各学校の教育課程と授業過程の問題点と 新学習指導要領の課題

馬居政幸

学力調査の結果を経済格差のデータ
に使用することへの疑問視

文部科学省「全国学力・学習状況調査の概要」における「調査の目的」

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

①+②

「全国学力調査」の結果に対する教育社会学研究の功績

→調査結果を実証データと位置付けての日本社会の格差構造の解明

☆私たち研究グループの調査研究

→沖縄での授業実践改善の歩みと静岡県と静岡市を含めて、複数の地方中心都市と小規模自治体での調査結果をふまえて、学力調査が求めてきた学校と教師による授業過程と教育課程の特性の分析を試みてきた。

③

都道府県が小学校から中学校段階にかけてどのような教育を行っているかに注目することによって、真の意味での学力向上のヒントが得られるのでは！

本報告の調査研究に協力いただいた行政機関と分析資料

静岡市教育委員会 学校教育課 教職員課 教育センター

『授業改善資料V』 「授業改善だより」 「静岡教師塾」 「希望研修」

岡山市教育委員会 指導課 研究研修センター 中央公民館 生涯学習課
市民協同局 岡山っ子育成局

「授業これだけは」「学習評価で生き生き授業」「子どもを育てる地域の人々を探せ！」

「岡山市教育大綱」『第2期教育振興基本計画』「市民の広場特集 岡山市の学校教育」

神石高原町教育委員会 資料はホームページよりダウンロード

「H29学校教育の重点」「平成28年度全国学力・学習状況調査結果概要」

「平成28年度『基礎・本』定着状況調査『基礎・本』定着状況調査概要」

「指導方法等の改善計画について〔教科別〕神石高原町立神石小学校」

「平成29年度『学校評価自己評価表』神石高原町立三和小学校」

「指導方法等の改善計画について〔教科別〕神石高原町立三和中学」

「平成29年度『学校評価自己評価表』神石高原町立三和中学」

しずおか教師塾 募集案内
(人数) 20名(希望者多数) 受講料 無料

あの先生みたいになりたいな

第1ステージ「授業実践」
第2ステージ「実践指導講座」
第3ステージ「課題対応講座」

第9期生募集!

募集期間：平成29年 10月1日～6日(5日)
 申込期間：平成29年 7月29日(土)
 受講期間：平成29年 9月 2日(土)

希望者の多くが、市内の小学校教育員になって選んでいます

静岡市教育委員会事務局 教育局 教職員課

授業改善支援資料

藤田 福
藤田 莉

学校教育
課長も先輩として

授業改善実践資料Vの発行による

目次

1. はじめに	1
2. 「付けるべき力が付く授業」づくりのために 資料編	3
3. 「付けるべき力が付く授業」実践編	15
4. 国語 (例：小学校第3学年)	15
5. 社会 (例：小学校第6学年)	16
6. 算数・数学 (例：小学校第5学年)	17
7. 理科 (例：中学校第1学年)	18
8. 生活 (例：小学校第2学年)	19
9. 音楽 (例：中学校第1学年)	20
10. 図画工作・美術 (例：小学校第1学年)	21
11. 体育・保健体育 (例：中学校第3学年 体育分野)	22
12. 家庭・技術・家庭 (例：中学校第2学年 家庭分野)	23
13. 外国語(英語) (例：中学校第2学年)	24
14. 外国語活動 (例：小学校第6学年)	25
15. 道徳 (例：小学校第4学年)	26
16. 総合的な学習の時間 (例：小学校第6学年)	27
17. 学級活動(特別活動)	28
18. 特別支援学級 (例：小学校第1, 2, 4学年 算数)	29

はじめに

(1) 基本理念

(2) 学力の3要素

(3) 学習指導要領

学力

教科の目標と評価の観点

授業改善だより

子どもの家で授業を体験しよう

内容

静岡市における今後の授業改善の方向性

09年度：学力向上の推進、21世紀型人材の育成

10年度：21世紀型人材育成の推進

11年度：21世紀型人材育成の推進

平成28年度の計画訪問を続けて

成果

今年に行方

【目標】「習得」を一緒にやる

【目標】「習得」を一緒にやる

しずおか教師塾は「人間力」と「教師力」を磨きあうために9か月にわたって多彩な講座・演習を行います!!

1日のスケジュール

人間力と教師力を育てる学びの3ステージ

人間力と教師力を育てる学びの3ステージ

目次

授業づくりの基礎から

教科の授業の実践に

0	はじめに	1
「付けるべき力が付く授業」づくりのために 資料編		
1	単元をどう構想するか	3
2	本時をどう構想するか	4
3	言語活動の充実	5
4	学習指導案(細案)の基本的な考え方	6
5	組織的な校内研修	8
参考	各校のPDCAサイクルを生かした研修	10
参考	授業チェックシート	11
参考	授業づくりあれこれ	12
「付けるべき力が付く授業」実践編		
1	国語 (例：小学校第3学年)	15
2	社会 (例：小学校第6学年)	16
3	算数・数学 (例：小学校第5学年)	17
4	理科 (例：中学校第1学年)	18
5	生活 (例：小学校第2学年)	19
6	音楽 (例：中学校第1学年)	20
7	図画工作・美術 (例：小学校第1学年)	21
8	体育・保健体育 (例：中学校第3学年 体育分野)	22
9	家庭・技術・家庭 (例：中学校第2学年 家庭分野)	23
10	外国語(英語) (例：中学校第2学年)	24
11	外国語活動 (例：小学校第6学年)	25
12	道徳 (例：小学校第4学年)	26
13	総合的な学習の時間 (例：小学校第6学年)	27
14	学級活動(特別活動)	28
15	特別支援学級 (例：小学校第1, 2, 4学年 算数)	29

Contents

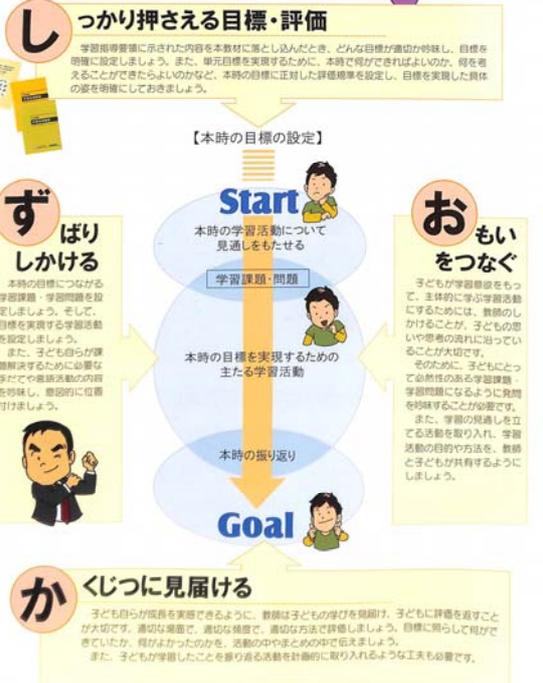
「付与すべき力が付く授業」づくりのために

本時をどう構想するか

「付与すべき力」が付く授業を行うためには、「付与すべき力」の理解と、子ども理解に基づき、「教員が学ばせたいこと」と「子どもが学ばせたいこと」が一致するような授業を構想し、展開を工夫していくことが必要です。

豊かな学力をはぐくみ、子どもの成長を促す授業を「し・す・お・か」です。

教師の興味関心・授業の基礎基本



言語活動の充実については、これまで各校で研修の手だてに取り入れたなど、積極的な取組がなされてきました。その一方で、言語活動が形式化・目的化してしまったり、「言語活動＝話し合い」といった偏った理解のみで取り組まれたりする例も見られました。ここでは、改めて言語活動の充実について考えを深めたいと思います。

(1) 言語活動の充実に関する基本的な考え方

社会の変化等に対応していくために、主体的に課題に取り組み、解決できる資質や能力が求められる中、国内外的な言語活動の重要性が認識され、課題を解決するための必要な「思考力・判断力・表現力等」に意識が向けられました。そこで、次の内容が学習指導要領に位置づけられました。



- 児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動を充実し、児童（生徒）の言語活動を充実すること。
- （中・小 学習指導要領 総則 第4 21）
- 各教科の「思考力・判断力・表現力等」の観点に対応した目標を掲げた授業での言語活動を充実させること。形式的な捉え方にならないよう、[知識・理解]や「読解」に対応した目標を掲げる授業であっても、子どもは思考力等を働かせている。
 - 道徳科で培った能力を土台として、各教科の目標を実現するための手だてとして言語活動を充実させるようにしましょう。

(2) 言語活動の具体例 (例) 1時中東洋館語国語道徳より

言語活動を授業に位置付ける場合は、子どもの発達段階や教科の特質を考慮し、子どもが主体的に取り組めるようにすることが大切です。その一例を示しました。

<p>体験から感じ取ったことを表現する</p> <p>(例) 生活</p> <p>身近な動物を飼育し、体験を通して感じたことをカードに書く。</p>	<p>事実を正確に理解し、伝述する</p> <p>(例) 社会</p> <p>施設見学をした結果を壁新聞にまとめ、報告する。</p>
<p>概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする</p> <p>(例) 算数</p> <p>公式の意味を理解し、それを用いた問題の解き方を説明する。</p>	<p>情報を分析・評価し、複数の資料をもとに、自分なりの考えをまとめる。条件にあわせて意見文を書く。</p> <p>(例) 国語</p>
<p>課題について、構想を立て実践し、評価・改善する</p> <p>(例) 理科</p> <p>予想に基づいて実験を行い、結果をまとめる。考察し、それを基に、説明したりする。</p>	<p>互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる</p> <p>(例) 学級活動</p> <p>テーマを決めて、討議をしながら考えを深め合う。</p>

4 学習指導案(総案)の基本的な考え方

授業づくりあれこれ

板書

ノート指導

学習課題の設定

発問・指名

机間指導

学習ルールの共有

言語環境の整備

IOTの活用

指導案、授業づくり、校内研修、各教科への具体化

5 組織的な校内研修

組織的な校内研修の重要性と実施方法について説明しています。

授業改善構想

授業改善の具体的なステップと実践例を示しています。

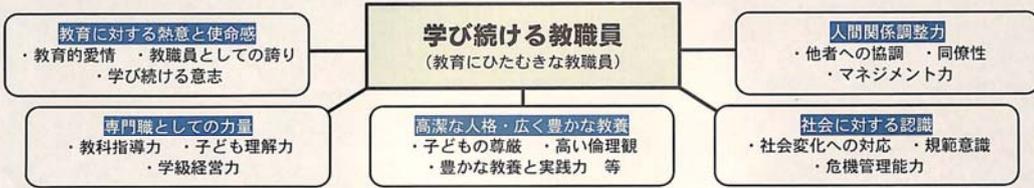
生活

生活科の学習内容と実践例について説明しています。

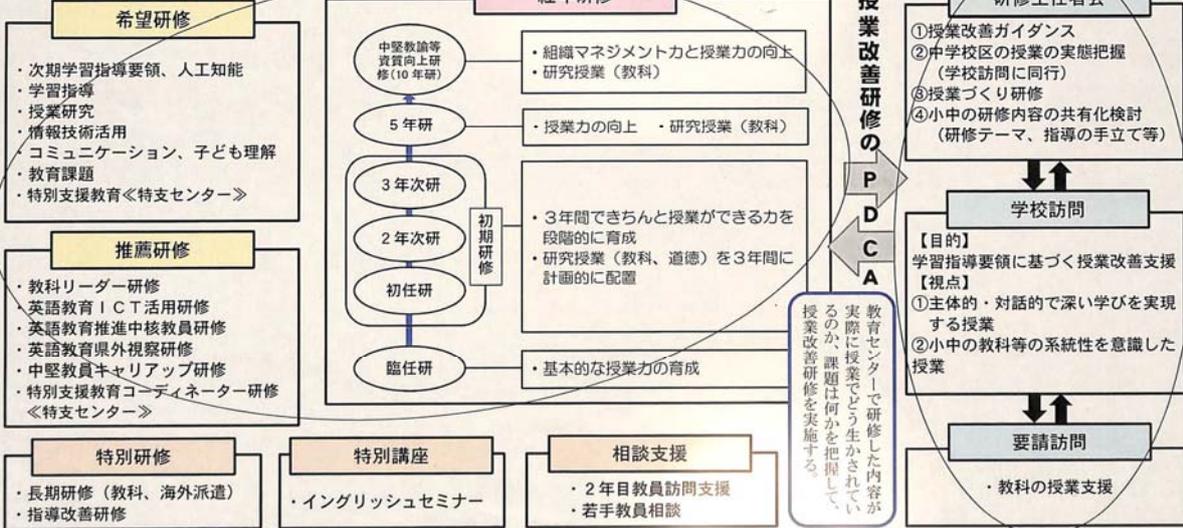
明示することで共有化を

静岡市教育センター

《目指す教職員像》



《教育センターの研修事業》



※職能研修(学教、教職員課)は除外、その他、ミドルリーダー研、道徳・人権、事務職員と養護教諭関係も除外

岡山市立すべての学校の統一した取組

授業これだけは！

授業の中で、児童生徒の学力の定着を図るには、どうすればよいのでしょうか？

児童生徒が「かがした！」と実感できるようにすることが大切です。そのため、「すべての授業ですべての児童の学びたいこと」に、積極的に取り組ましましょう。

すべての授業ですべての児童が行うこと

Point1 「めあて」を示す

Point2 「めあて」に対応した「まとめ」を行う

○「ワンクック」で課題に取り入れたいよ

児童生徒が自分で考え、表現する場を設定する

岡山市全体で児童生徒の学力の定着を図る

具体的には？

徹底！すべての授業で行いましょう！

「めあて」を示す

児童生徒の学びたいこと

「めあて」に対応した「まとめ」を行う

児童生徒が自分で考え、表現する場を設定する

「授業これだけは！」を、岡山市立すべての学校の統一した取組

岡山市全体で児童生徒の学力の定着を図る

児童生徒が自分で考え、表現する場を設定する

学力が定着する

さらに！「めあて」と「まとめ」の質を高めよう！

「めあて」が「めあて」の質を向上させるためには、どうすればよいですか？

「めあて」を示す

「めあて」に対応した「まとめ」を行う

「めあて」と「まとめ」の質を高めよう！

Check! あなたの「めあて」力 診断

あなたの「めあて」力は？ □にチェックしていきましょう。

「めあて」の質を向上させている

「めあて」に対応した「まとめ」を行っている

「めあて」と「まとめ」の質を高めよう！

岡山市も授業づくりの基礎基本の確認から

Check! あなたの「まとめ」力 診断

あなたの「まとめ」力は？ □にチェックしていきましょう。

「めあて」に対応した「まとめ」を行っている

「めあて」と「まとめ」の質を高めよう！

児童生徒が自分で考え、表現する場を設定する

児童生徒が自分で考え、表現する場を設定する

児童生徒が「めあて」に基づいて考え、表現する場を設定する

「めあて」に基づいて考え、表現する場を設定する

「めあて」に基づいて考え、表現する場を設定する

岡山やまちの学びを深めよう！

岡山県教育委員会

岡山県教育委員会事務局

〒760-0001 岡山県岡山市東区南町1-1-1 TEL: 086-822-1100

学習評価でいきいき授業!

指導と評価の一体化

教科に準拠した学習評価
学習指導要領に示された内容が児童生徒に身に付いたかどうかを的確に把握しよう。

学習指導
評価によって把握した児童生徒の学習状況を授業に生かし、指導の実を高めよう。

評価をして終わりではなく、そこから児童生徒の学習や授業がどうよくなっていくかという観点から授業をつくり直してみよう。

岡山市教育委員会事務局指導課

観点別学習状況って どうやって見取るの?

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
何を?	各教科の学習として学習内容に関心をもち、意欲を持って学習に取り組んでいるか。	各教科の知識・技能を基盤として、思考することによって自ら考え、表現力・判断力と思考・判断力と表現力をもつて学習に取り組んでいるか。	各教科にたいして習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。	各教科において習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。
いつ?	① 各教科で学習に取り組むときに、意欲を持って学習に取り組んでいるか。	① 学習指導要領の目標と達成するための学習活動が、各教科の知識・技能を基盤として、思考することによって自ら考え、表現力・判断力と思考・判断力と表現力をもつて学習に取り組んでいるか。	① 各教科にたいして習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。	① 各教科において習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。
どうやって?	① 各教科の学習活動を通して、意欲を持って学習に取り組んでいるか。	① 各教科の知識・技能を基盤として、思考することによって自ら考え、表現力・判断力と思考・判断力と表現力をもつて学習に取り組んでいるか。	① 各教科にたいして習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。	① 各教科において習得すべき知識・技能を正確に理解しているか。

学習評価に関する参考資料

① 関心・意欲・態度の状況は、授業中の様子・発言の回数や積極的な発言の有無で判断できる。

② 思考・判断・表現に関する学習評価はルーブリック方式で行われる。

③ 学習指導要領の中で、ある観点すべてを評価しなくてもよい場合がある。

④ 目的を定めて、適切な学習活動を通して、児童生徒の学習状況を把握しよう。

⑤ 学習の目標に照らして評価を行う。

⑥ 授業の目標に照らして、児童生徒の学習状況を把握しよう。

「関心・意欲・態度」の状況はどうやって見取るの?

観察法
授業観察、授業録音など。

単元名「国語 ネットをツツプツツス」

① 関心・意欲・態度の状況は、授業中の様子・発言の回数や積極的な発言の有無で判断できる。

② 思考・判断・表現に関する学習評価はルーブリック方式で行われる。

③ 学習指導要領の中で、ある観点すべてを評価しなくてもよい場合がある。

④ 目的を定めて、適切な学習活動を通して、児童生徒の学習状況を把握しよう。

⑤ 学習の目標に照らして評価を行う。

⑥ 授業の目標に照らして、児童生徒の学習状況を把握しよう。

「思考・判断・表現」の状況はどうやって見取るの?

観察法
授業観察、授業録音など。

単元名「国語 水・空気のあたり方」

① 関心・意欲・態度の状況は、授業中の様子・発言の回数や積極的な発言の有無で判断できる。

② 思考・判断・表現に関する学習評価はルーブリック方式で行われる。

③ 学習指導要領の中で、ある観点すべてを評価しなくてもよい場合がある。

④ 目的を定めて、適切な学習活動を通して、児童生徒の学習状況を把握しよう。

⑤ 学習の目標に照らして評価を行う。

⑥ 授業の目標に照らして、児童生徒の学習状況を把握しよう。

「技能」の状況はどうやって見取るの?

観察法
授業観察、授業録音など。

単元名「古代の政治と文化」

① 関心・意欲・態度の状況は、授業中の様子・発言の回数や積極的な発言の有無で判断できる。

② 思考・判断・表現に関する学習評価はルーブリック方式で行われる。

③ 学習指導要領の中で、ある観点すべてを評価しなくてもよい場合がある。

④ 目的を定めて、適切な学習活動を通して、児童生徒の学習状況を把握しよう。

⑤ 学習の目標に照らして評価を行う。

⑥ 授業の目標に照らして、児童生徒の学習状況を把握しよう。

「知識・理解」の状況はどうやって見取るの?

観察法
授業観察、授業録音など。

単元名「算数 分数と小数を工夫しよう」

① 関心・意欲・態度の状況は、授業中の様子・発言の回数や積極的な発言の有無で判断できる。

② 思考・判断・表現に関する学習評価はルーブリック方式で行われる。

③ 学習指導要領の中で、ある観点すべてを評価しなくてもよい場合がある。

④ 目的を定めて、適切な学習活動を通して、児童生徒の学習状況を把握しよう。

⑤ 学習の目標に照らして評価を行う。

⑥ 授業の目標に照らして、児童生徒の学習状況を把握しよう。

学習評価を学習指導に生かす授業づくり

本時案
本時の目標

学習活動
教師の支援・指導
評価・評価方法

あゆみ

まとめ

学習過程とリンクした評価の方法→教師の授業力育成のための評価として

教育委員会法改正を活かす

岡山市教育大綱

教育は、人びとを育てるために必要不可欠なものである。従って、教育は文化の発展と社会の発展を促すとともに、個人の人生を豊かにし、よりよい社会づくりに貢献することの重要な役割を担うことである。

岡山市では、教育委員会が掲げる「人々の成長」を目的とし、一人一人の子どもが、個性・能力を伸ばし、自らを表現し、社会に貢献する力を身に付け、心豊かに成長し、社会の発展と文化の発展に貢献することを目指す。

この大綱は、教育委員会が掲げる「人々の成長」を目的とし、一人一人の子どもが、個性・能力を伸ばし、自らを表現し、社会に貢献する力を身に付け、心豊かに成長し、社会の発展と文化の発展に貢献することを目指す。

岡山市長 大森 雅夫

☆共有化可能なデータの授業実践化に挑む

学力の向上

課題の方向性 | 重要事項

問題行動等の防止及び解決

課題の方向性 | 重要事項

学力の向上

課題の方向性 | 重要事項

問題行動等の防止及び解決

課題の方向性 | 重要事項

『樹人』明日の世界に飛躍する人を樹る

樹人の先人・大森 雅夫は、『樹人』創刊以来、「教育の発展」を第一の目的として、中国東部の教育の発展に尽力し、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。『樹人』は、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。『樹人』は、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。

『樹人』は、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。『樹人』は、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。『樹人』は、明日の世界に飛躍する人を樹ることを目指した。

学力の向上

現状と課題

取組の方向性 | 重要事項

問題行動等の防止及び解決

課題の方向性 | 重要事項

課題の方向性 | 重要事項

学力の向上

問題行動等の防止及び解決

課題の方向性 | 重要事項

問題行動等の防止及び解決

現状と課題

取組の方向性 | 重要事項

学力の向上

課題の方向性 | 重要事項

課題の方向性 | 重要事項

学力の向上

問題行動等の防止及び解決

課題の方向性 | 重要事項



全ては子どもたちの作品から

教師は学習者のモデル

キーワードは自立

01 目指す教育観
成長機会を豊富にする教育環境

子どもたちが、自ら学び、自ら表現し、自ら成長できる環境を整える。また、子どもたちが、自ら学び、自ら表現し、自ら成長できる環境を整える。また、子どもたちが、自ら学び、自ら表現し、自ら成長できる環境を整える。

02 目指す教育観
情熱、力量、人間力を養い、学び続ける教職員

情熱、力量、人間力を養い、学び続ける教職員。情熱、力量、人間力を養い、学び続ける教職員。情熱、力量、人間力を養い、学び続ける教職員。

03 目指す教育観
生涯学び続ける

生涯学び続ける。生涯学び続ける。生涯学び続ける。生涯学び続ける。生涯学び続ける。

5 計画推進の考え方(つがり)を大切にした教育の展開

① 目指す教育観を踏襲し、教育の展開を推進する。目指す教育観を踏襲し、教育の展開を推進する。目指す教育観を踏襲し、教育の展開を推進する。

② 計画推進の考え方(つがり)を大切にした教育の展開。計画推進の考え方(つがり)を大切にした教育の展開。計画推進の考え方(つがり)を大切にした教育の展開。

③ 自立に向って成長する子ども(自立する子ども)。自立に向って成長する子ども(自立する子ども)。自立に向って成長する子ども(自立する子ども)。

④ 学校園、家庭、地域社会の連携。学校園、家庭、地域社会の連携。学校園、家庭、地域社会の連携。

市民のひろば
おかやま
第28号
2016年7月号

岡山市の学校教育
～未来を拓く岡山っ子を育てよう～

未来を拓く岡山っ子を育てるためにあなたができることは？

7月13日(月)

岡山市教育振興基本計画を策定しました

6つの政策で自立に向って成長する子どもを育成します

① 主体的な学びの推進による豊かな学びの育成

② 生涯学習の推進による豊かな学びの育成

③ 学校園の教育環境の充実

④ 家庭、地域社会の連携による豊かな学びの育成

⑤ 一人一人の育ちを支える

⑥ 人・文化・自然との関わりを深め豊かな学びの育成

課題解決に向けて「取り組む」

2. 異動行動等の防止及び解決のために

1. 学力の向上のために

岡山市教育委員会

岡山市地域協働学校

中学校区を単位とした学校園一貫教育

岡山市教育委員会

☆子どもたちへの支援は学校の教育課程を社会に開くことから

明るく、楽しく、
たおやかに



高齢化率46%、広島県神石高原町でなぜ？

I 平成28年度全国学力・学習状況調査結果概要

(1) 調査について

(1) 調査目的	◎国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証し、改善を図る ◎各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る
(2) 実施日	平成28年4月19日(火)
(3) 対象校	町内全小中学校
(4) 調査対象	小学校・6年生(児童59名) 中学校・3年生(生徒62名)
(5) 調査内容	①教科に関する調査(国語・算数・数学) <主として「知識」に関する問題(A問題)> 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能などを問う問題 <主として「活用」に関する問題(B問題)> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題 ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 <学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査> (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はよくわかりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況など
(6) 各教科の領域	小中学校国語・・・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 小学校算数・・・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」 中学校数学・・・「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

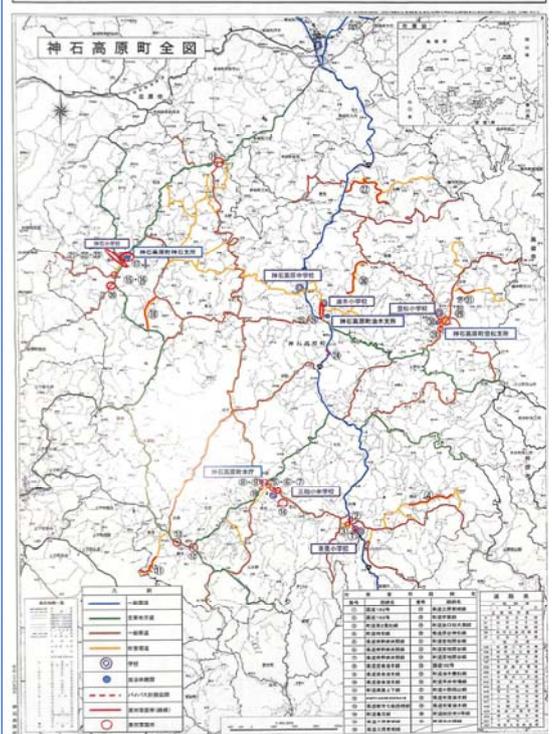
(2) 結果一覧

<小学校>	国語A	国語B	算数A	算数B
神石高原町	85.9	65.4	81.3	49.8
全国	72.9	57.8	77.6	47.2
県	78.4	60.5	79.7	49.5



<中学校>	国語A	国語B	数学A	数学B
神石高原町	83.8	81.4	67.3	50.2
全国	75.6	66.5	62.2	44.1
県	76.6	67.9	62.1	44.8

神石高原町 安全対策箇所位置図(全体)





(3) 各領域別の調査結果

小学校

○教科に関する調査

国語	小学校A					小学校B				
	教科全体	話すこと・書くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教科全体	話すこと・書くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
神石高専	85.9	83.1	77.1	84.7	88.1	65.4	60.5	61.6	79.1	—
全国	72.9	79.2	72.8	78.5	71.1	57.8	51.1	53.4	69.3	—
県	78.4	81.3	76.1	80.2	78.1	60.5	53.9	56.7	71.7	—
対照比	7.5	1.8	1.0	4.5	10.0	4.9	6.6	4.9	7.4	—

算数	小学校A					小学校B				
	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
神石高専	81.3	83.4	80.5	93.2	67.8	49.8	46.9	42.4	32.8	47.5
全国	77.8	80.5	77.0	78.8	68.5	47.2	44.4	43.7	36.3	42.9
県	79.7	82.0	79.5	83.0	70.2	49.5	47.1	45.0	36.9	45.5
対照比	1.6	1.4	1.0	10.2	▲2.4	0.3	▲0.2	▲2.6	▲4.1	2.0

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っていることから、学力は概ね定着していると言える。領域別では、特にA問題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国の平均正答率を大きく上回った。
- ・算数は、A問題・B問題共に教科全体では全国の平均正答率を上回っているが、B問題の平均正答率は49.8%であり、活用する力等には引き続き課題が残る。領域別ではA問題「数量関係」、B問題「量と測定」「図形」が全国及び県平均を下回っている。

○生活・学習に関する調査

- ・県・国を15%以上、上回ったのは次の質問項目である。
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」(県+17.9、国+21.2)
「週に1回以上図書館に行く」(県+20.4、国+15.8)
「自分で計画を立てて勉強する」(県+16.0、国+19.2)
「予習をする」(県+20.4、国+22.8)
「復習をする」(県+24.1、国+27.8)
「予習・復習、テスト勉強などに教科書を使う」(県+15.8、国+21.9)
「話し合い活動で、異なる意見や少数意見のよさを活かしたり折り合いをつけたりして意見をまとめている」(県+20.4、国+19.4)
「今住んでいる地域の行事に参加する」(県+27.5、国+30.4)
「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」(県+15.0、国+18.9)
「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報収集し発表するなどしている」(県+27.8、国+27.8)
「今までの授業は、自分たちで課題を立てて情報収集し、話し合いながら整理し発表する学習活動に取り組んでいた」(県+15.7、国+15.9)
- ・肯定的回答が100%であったのは次の質問項目である。
「学校で友達に会うのは楽しい」
「今までの授業の中では目標(めあて)が示されていた」

中学校

○教科に関する調査

国語	中学校A				中学校B					
	教科全体	話すこと・書くこと	書くこと	読むこと	教科全体	話すこと・書くこと	書くこと	読むこと		
神石高専	83.8	88.2	85.9	87.6	80.5	81.4	—	76.9	81.4	—
全国	75.6	78.9	73.7	78.5	73.9	66.5	—	58.3	66.5	—
県	76.6	80.1	76.2	78.9	74.6	67.9	—	61.0	67.9	—
対照比	7.2	8.1	9.7	8.7	5.9	13.5	—	15.9	13.5	—

数学	中学校A				中学校B					
	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用
神石高専	67.3	70.3	74.3	54.0	64.1	50.2	56.5	37.9	42.3	63.7
全国	62.2	65.9	67.1	52.0	56.5	44.1	51.5	33.3	41.4	39.3
県	62.1	65.8	67.2	51.3	57.8	44.8	51.4	33.9	41.2	44.7
対照比	5.2	4.5	7.1	2.7	6.3	5.4	5.1	4.0	1.1	19.0

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っている。また、A問題・B問題の平均正答率の差があまりないことから、学力は概ね定着していると言える。領域別でも、全ての領域において全国及び県平均を上回っている。
- ・数学においても、A問題・B問題共に、全国の平均正答率を上回っている。領域別に見ても、全ての領域で全国及び県平均を上回っている。しかし、B問題は平均正答率50.2%と、まだ課題が残る。

○生活・学習に関する調査

- ・県・国を15%以上、上回ったのは次の質問項目である。
「週に1回以上図書館に行く」(県+23.9、国+23.0)
「自分で計画を立てて勉強する」(県+19.9、国+27.4)
「予習をする」(県+36.2、国+36.8)
「復習をする」(県+29.9、国+34.5)
「予習・復習、テスト勉強などに教科書を使う」(県+20.3、国+23.8)
「学校のきまりなどを話し合っておく」(県+17.8、国+18.4)
「話し合い活動で、異なる意見や少数意見のよさを活かしたり折り合いをつけたりして意見をまとめている」(県+34.3、国+35.2)
「先生は分かるまで教えてくれる」(県+20.8、国+24.3)
「今住んでいる地域の行事に参加する」(県+20.1、国+24.2)
「地域や社会で起っている問題や出来事に関心がある」(県+23.5、国+29.4)
「新聞を読む」(県+19.9、国+23.6)
「『総合的な学習の時間』は好き」(県+20.9、国+20.4)
「『総合的な学習の時間』では自分で課題を立てて情報を集め整理し発表している」(県+24.1、国+31.0)
「1・2年生の授業では課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいた」(県+18.4、国+23.0)
「1・2年生の授業では、自分たちで課題を立てて情報収集し、話し合いながら整理し発表する学習活動に取り組んでいた」(県+17.6、国+24.2)
「話し合い活動では、内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」(県+17.0、国+21.1)
「1・2年生の授業では、自分の考えが伝わるよう工夫して発表していた」(県+18.3、国+24.5)
「1・2年生の道徳の時間では自分の考えを深めたり話し合ったりする活動をしていた」(県+15.8、国+22.6)

20人以上は三和小の1年、5年、6年だけ

平成29年度学校別児童生徒数概算 (H29.8.1)

【小学校】	通常学級児童数							特別支援学級児童数	児童数合計	学級数		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			通常学級	特別支援学級	合計
来見小	6	15	7	10	(9)	(6)	53	5	58	5 (内複式1)	2	7
三和小	22	19	14	19	22	20	116	5	121	6	2	8
神石小	9	10	12	11	(10)	(5)	57	3	60	5 (内複式1)	1	6
油木小	8	8	10	11	7	12	56	3	59	6	2	8
豊松小	0	4	(4)	(4)	5	12	29	3	32	4 (内複式1)	2	6
合計	45	56	47	55	53	55	311	19	330	26	9	35

：複式学級（基準）

小学校複式学級は、第1学年を含む場合 8人
第1学年を含まない場合 16人

【中学校】

【中学校】	通常学級生徒数				特別支援学級生徒数	生徒数合計	学級数		
	1年	2年	3年	計			通常学級	特別支援学級	合計
三和中	25	24	34	83	3	86	4	2	6
神石高原中	34	22	34	90	2	92	3	1	4
合計	59	46	68	173	5	178	7	3	10

教師、授業、学力を変数に

静岡市、岡山市、神石高原町の実践が示唆する
全国学力調査の学校の教育課程と授業実践課程への影響

1. 学校単位の教育課程と授業過程の共有化の重要性を再認識
2. 授業づくりのレベルでの実践方法の不断の鍛え
3. 教員は教える師の前に学習者のモデルに
4. 学校を単位に教師による自己評価の日常化と評価過程の公開を
5. 授業づくり、研究状況、学校評価のレベルでの公開を

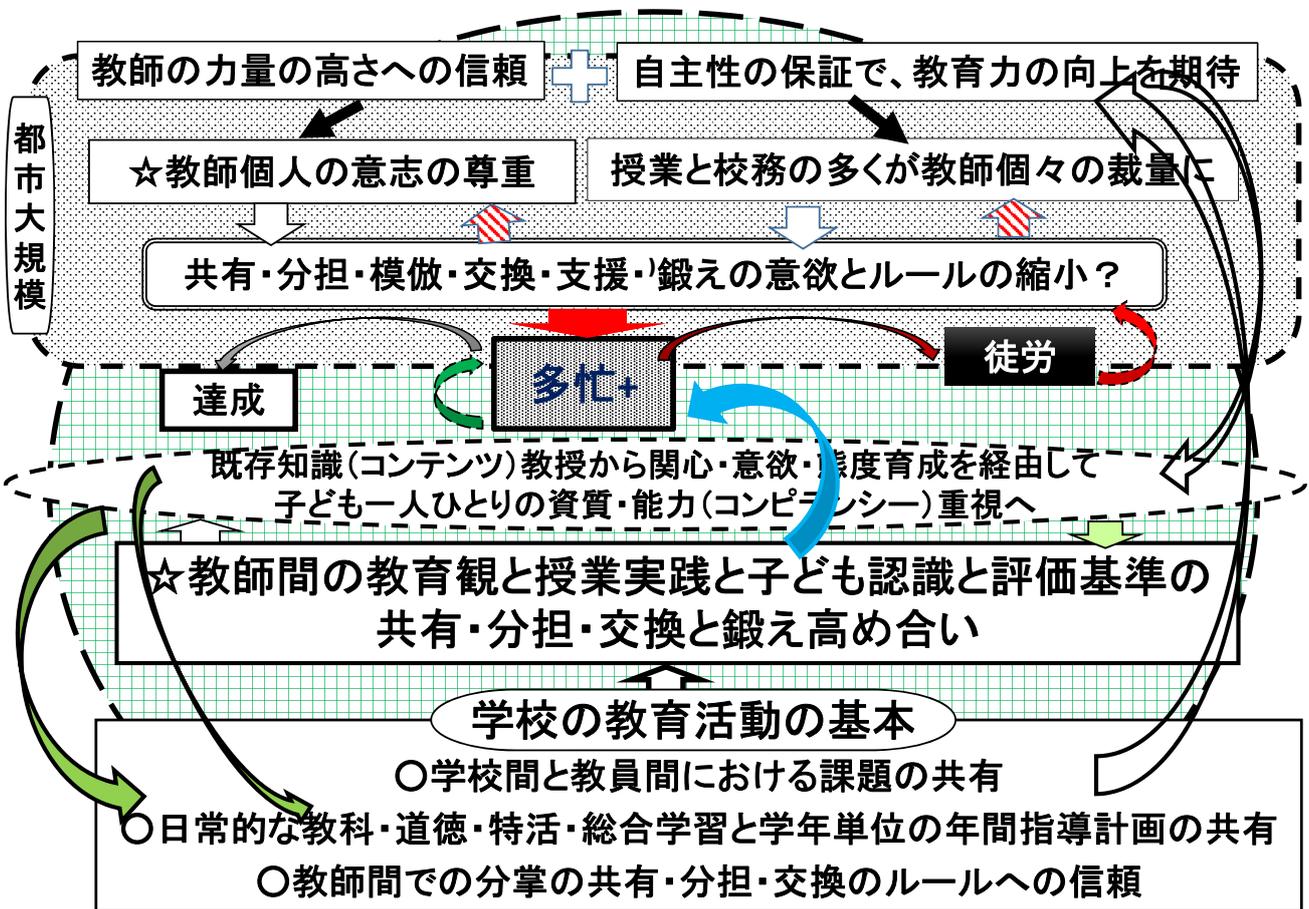
教室王国から
自由に

鍛え合い、競い
合い、支えあい、
高め合う

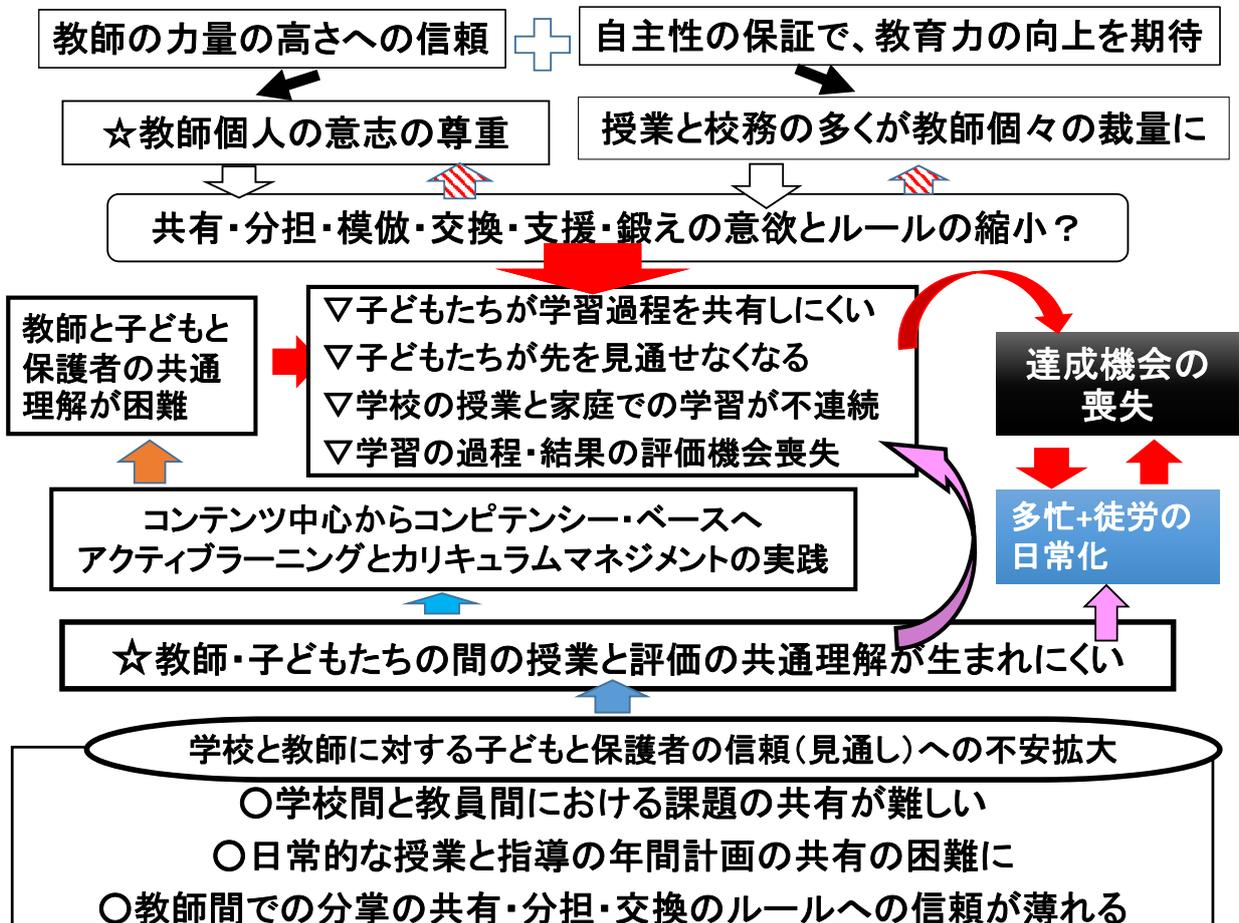
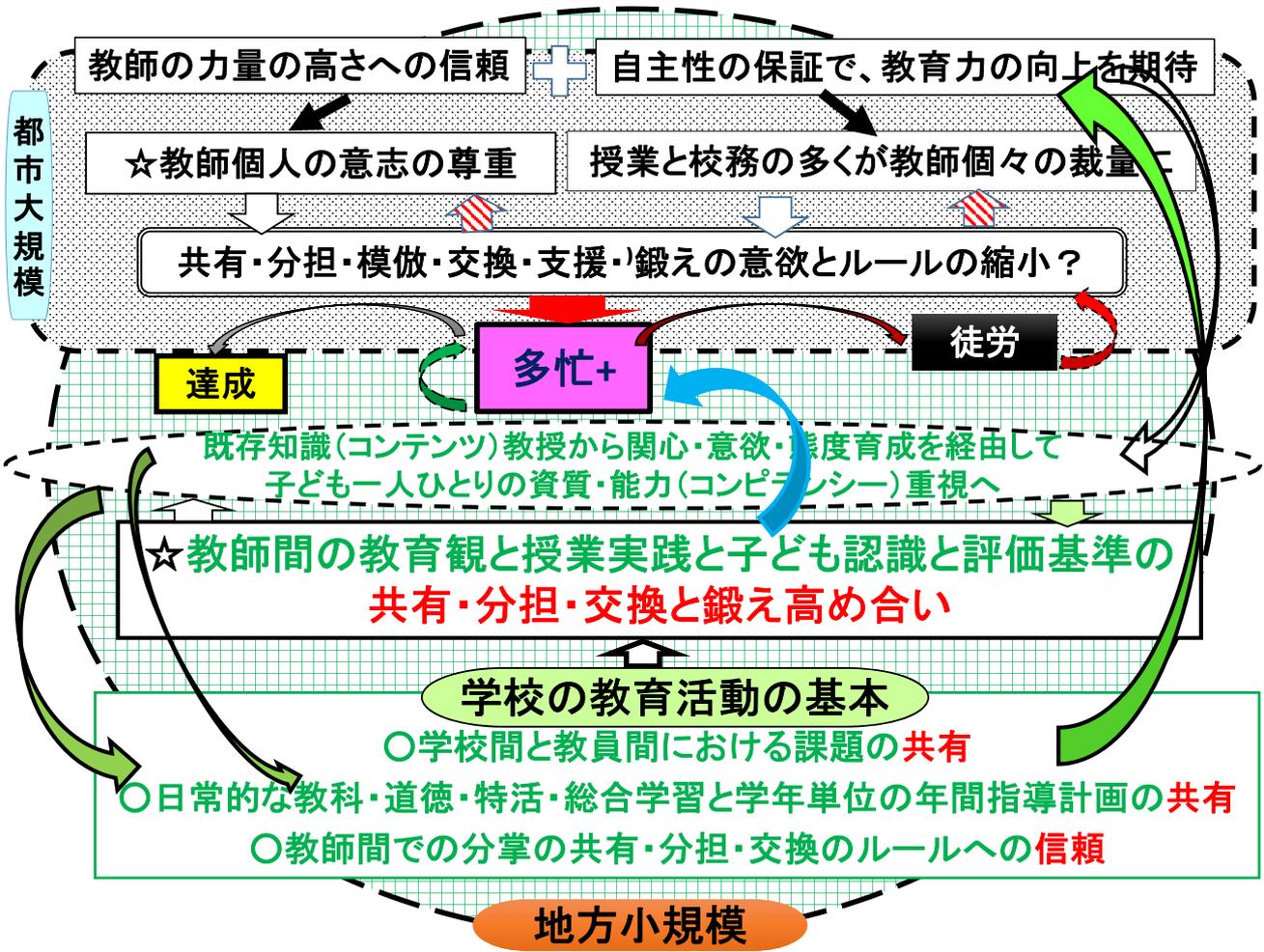
未来を拓く力は、
今と自らを開くことから！

上記考察の中間報告として、次の5種のモデル図から課題の開示を

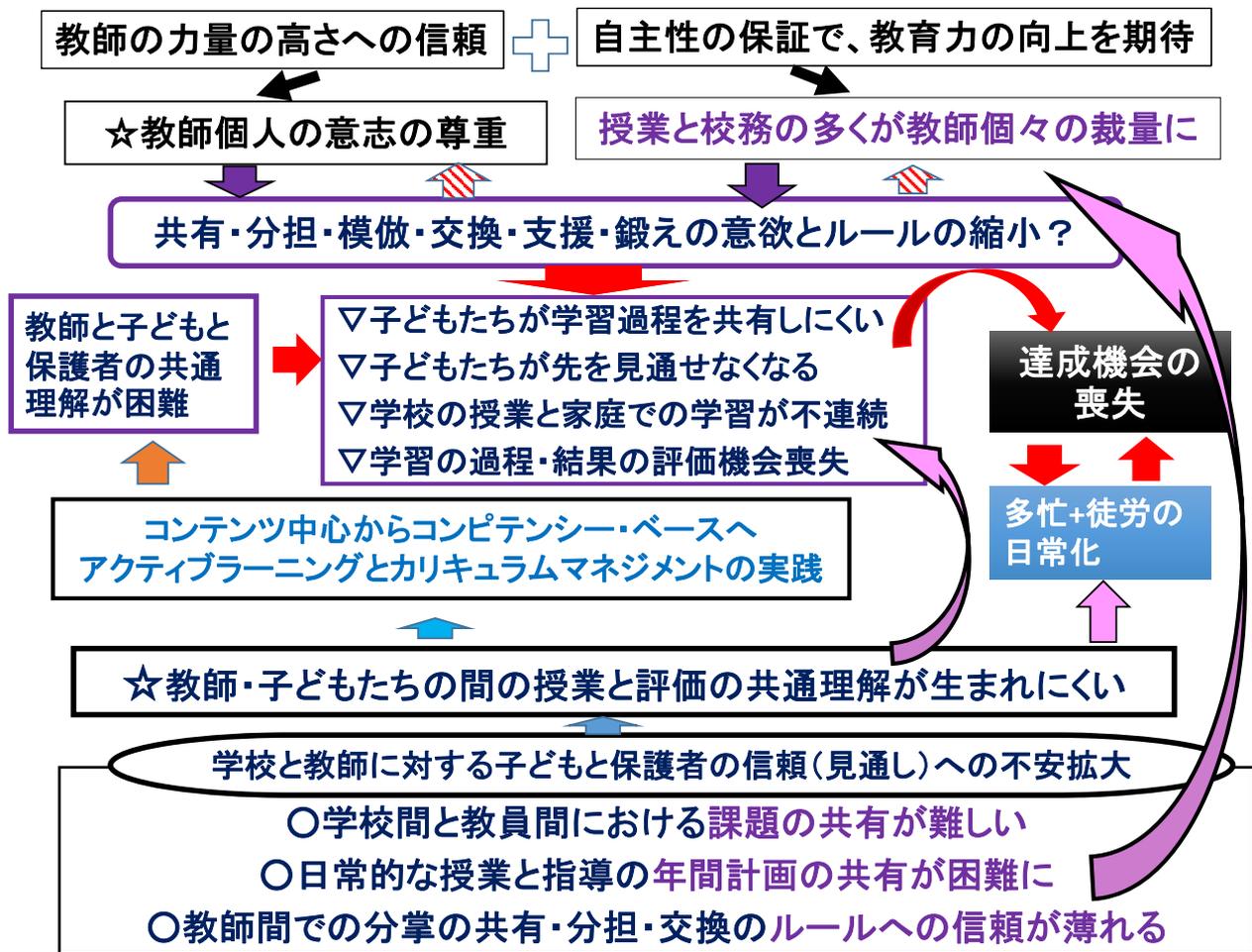
- (1)「全国学力調査が示唆する教師と子どもたちとの授業過程の課題」
- (2)「全国学力調査が求める教師と学校の教育課程と学習過程の課題」
- (3) 幼児期→小・中・高の教科等の教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の
連携構想図
- (4) 三種の学びと資質・能力育成モデル図
- (5) 人口減少時代の幼児教育・学校教育制度私見(子ども子育て支援新制度)



(1) 全国学力調査が示唆する教師と **地方小規模** 子どもたちとの授業過程の課題



(2) 全国学力調査が求める教師と学校の教育課程と学習過程の課題



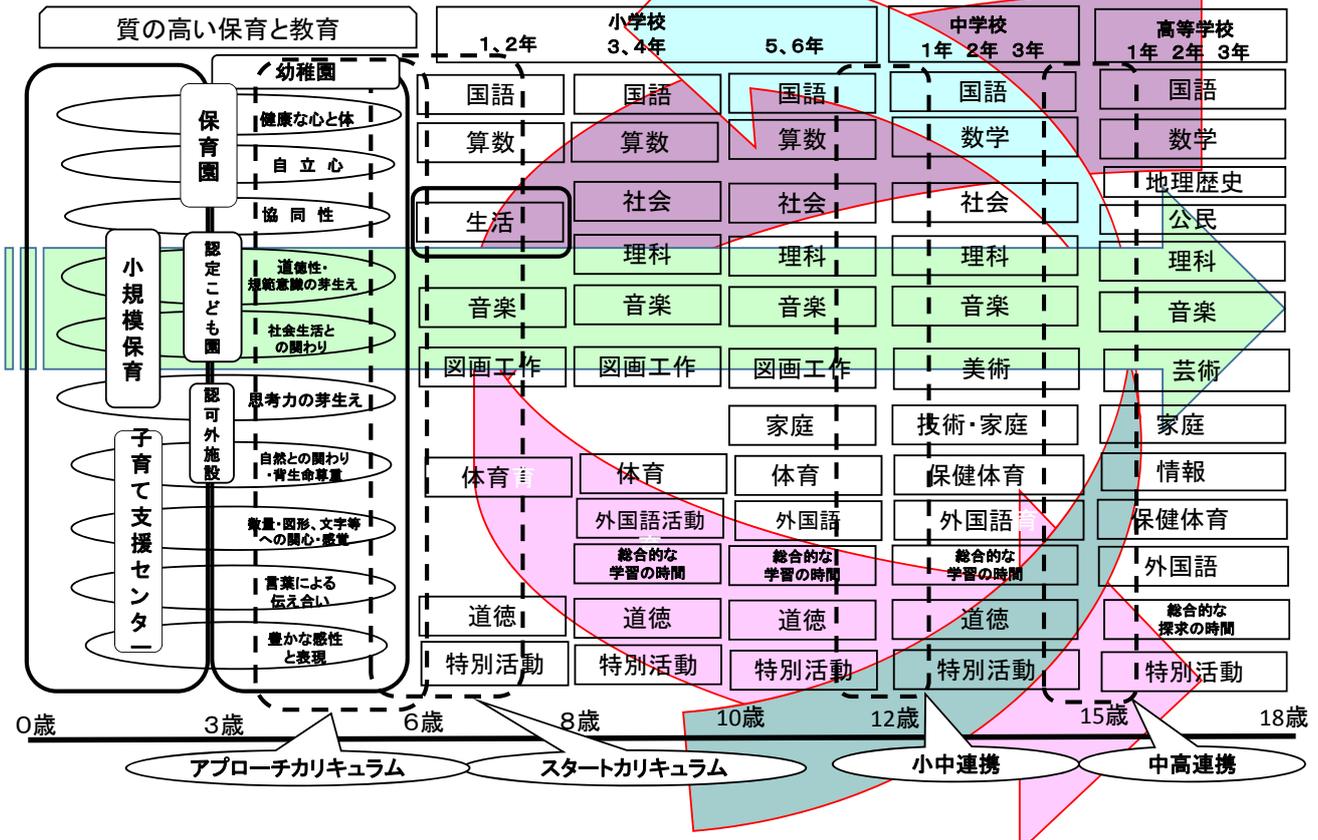
(3) 幼児期に育てほしい10の姿→小・中・高の教科等の教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の連携構想図

質の高い保育と教育		1, 2年	小学校 3, 4年	5, 6年	中学校 1年 2年 3年	高等学校 1年 2年 3年
保育園 健康な心と体 自立心 協同性 小規模保育 認定こども園 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 子育て支援センター 認可外施設 思考力の芽生え 自然との関わり・背生命尊重 算量・図形、文字等への関心・意欲 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	幼稚園	国語	国語	国語	国語	国語
	算数	算数	算数	数学	数学	
	生活	社会	社会	社会	地理歴史	
	音楽	理科	理科	理科	公民	
	図画工作	音楽	音楽	音楽	理科	
		図画工作	図画工作	図画工作	美術	音楽
		家庭	家庭	家庭	芸術	
	体育	体育	体育	体育	技術・家庭	家庭
		外国語活動	外国語	外国語	保健体育	情報
	道徳	道徳	道徳	道徳	外国語	保健体育
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	外国語	
		総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な探求の時間	
		特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	

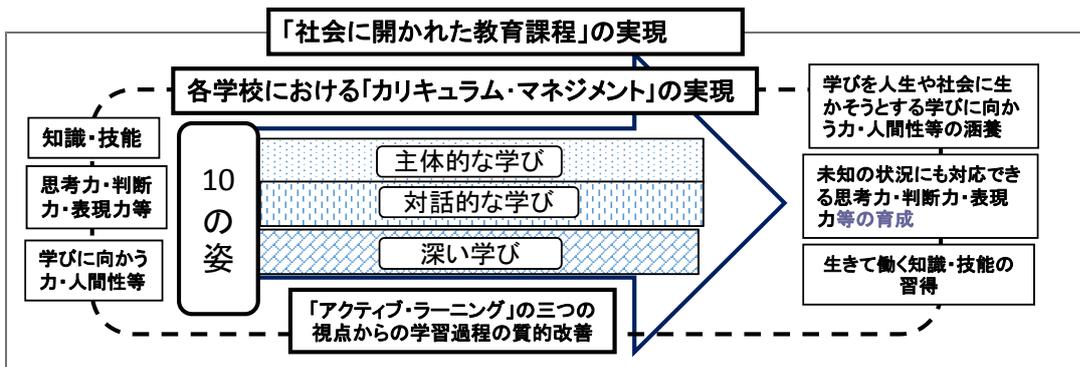
0歳 3歳 6歳 8歳 10歳 12歳 15歳 18歳

アプローチカリキュラム スタートカリキュラム 小中連携 中高連携

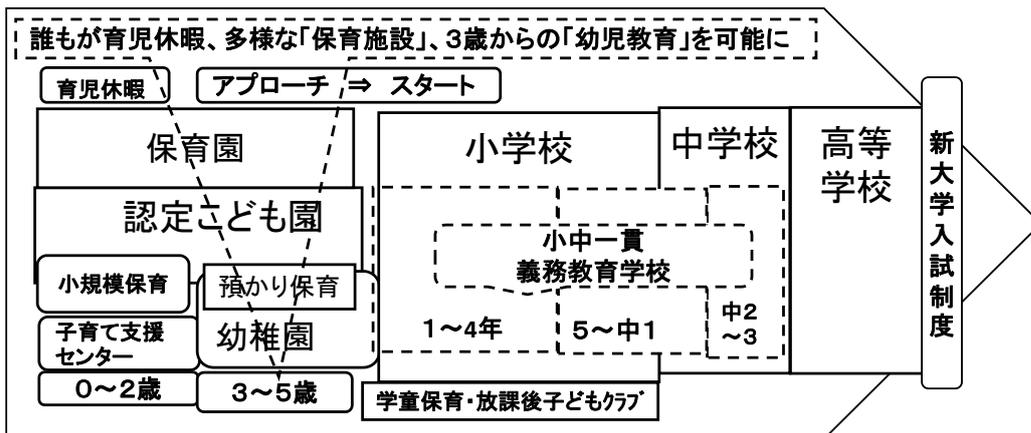
(3) 幼児期に育てほしい10の姿→小・中・高の教科等の
教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の連携構想図



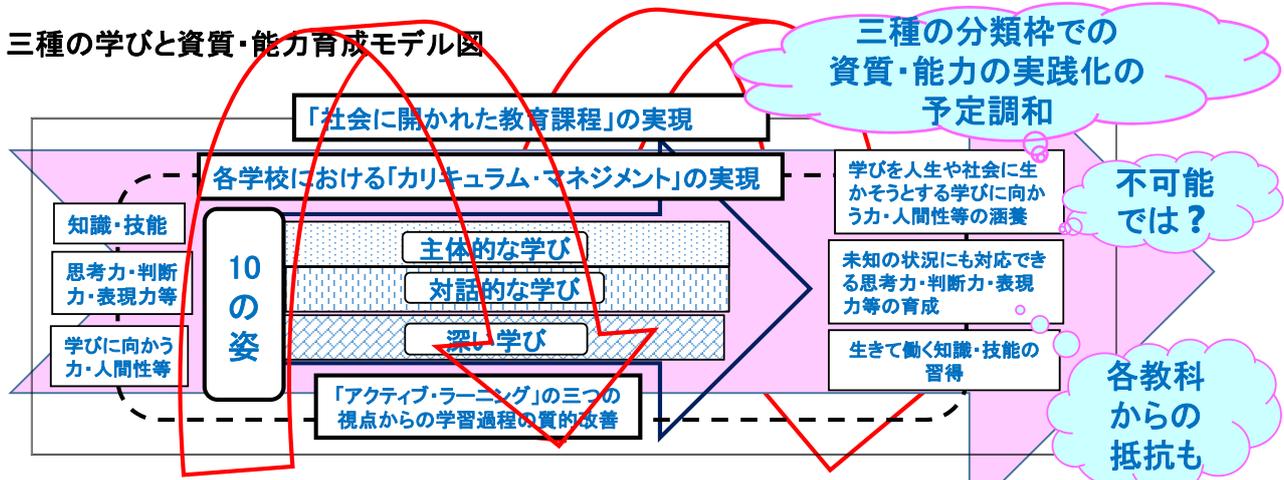
(4) 三種の学びと資質・能力育成モデル図



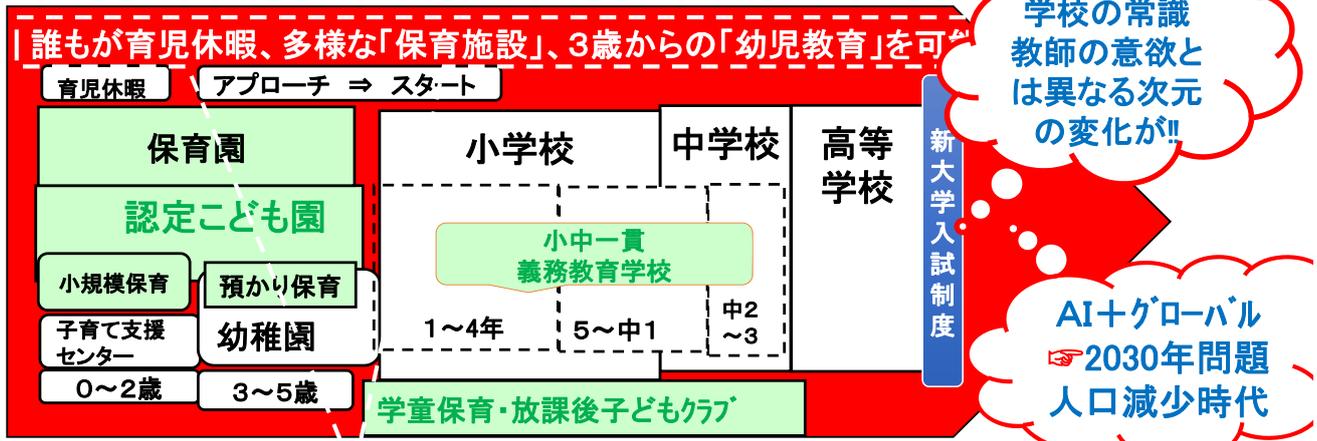
(5) 人口減少時代の幼児教育・学校教育制度私見(子ども子育て支援新制度)



三種の学びと資質・能力育成モデル図



☆ 人口減少時代の幼児教育・学校教育制度私見(子ども子育て支援新制度)



全国学力調査を超える
新学習指導要領実践化への課題

学力、教師、授業の再定義の試みだが...

実質的に学力の再定義に

1. 教科の学習結果としての学力から子ども一人一人の資質・能力育成への転換の目的、背景、実践方法への理解の共有化
2. 個々の児童生徒に応じた資質・能力育成を可能にする教育課程と授業過程の開発
3. 教科を超える教育課程と授業実践の手順の開発

資質・能力の具体化・個別化

社会的文脈への問いを

現時点での研究状況として資料参照

資料 1

考察の経緯

「未来社会につなぐ！現代社会の課題と社会科授業デザイン」月刊誌『社会科教育』
 明治図書 2016年4月～2017年3月連載1～12回

「今、人気を誇る「ONE PIECE」の魅力」『児童心理』金子書房 2016年12月号

『無藤隆が徹底解釈 学習指導要領改訂のキーワード』明治図書 2017年2月
 解説：無藤隆、制作：馬居政幸・角替弘志

「人口減少と学校教育」『人口減少問題と学校教育 研究報告No.90』
 中央教育研究所 2017年6月

「『子育て事情・子育て支援』の動向について」『子ども社会研究』第23号
 日本子ども社会学会 2017年6月

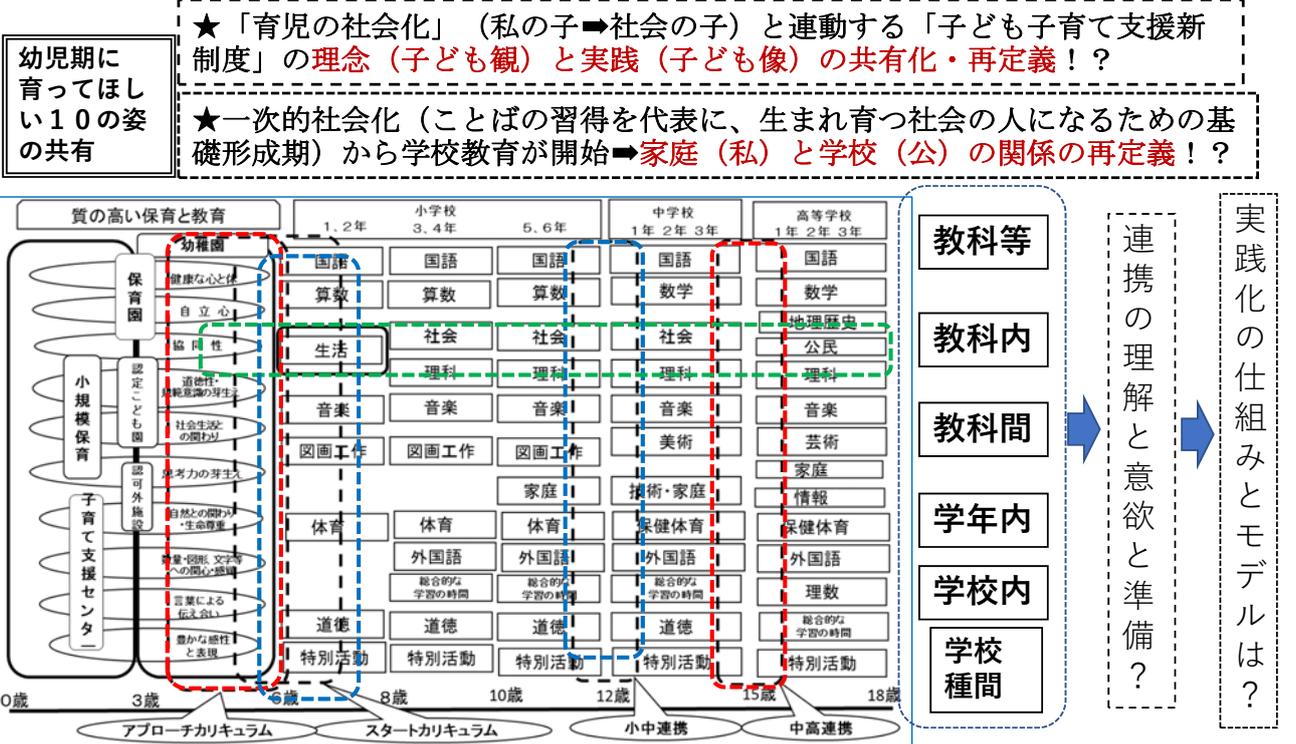
『変化する社会と生涯学習の課題』NSK出版 2017年6月



2

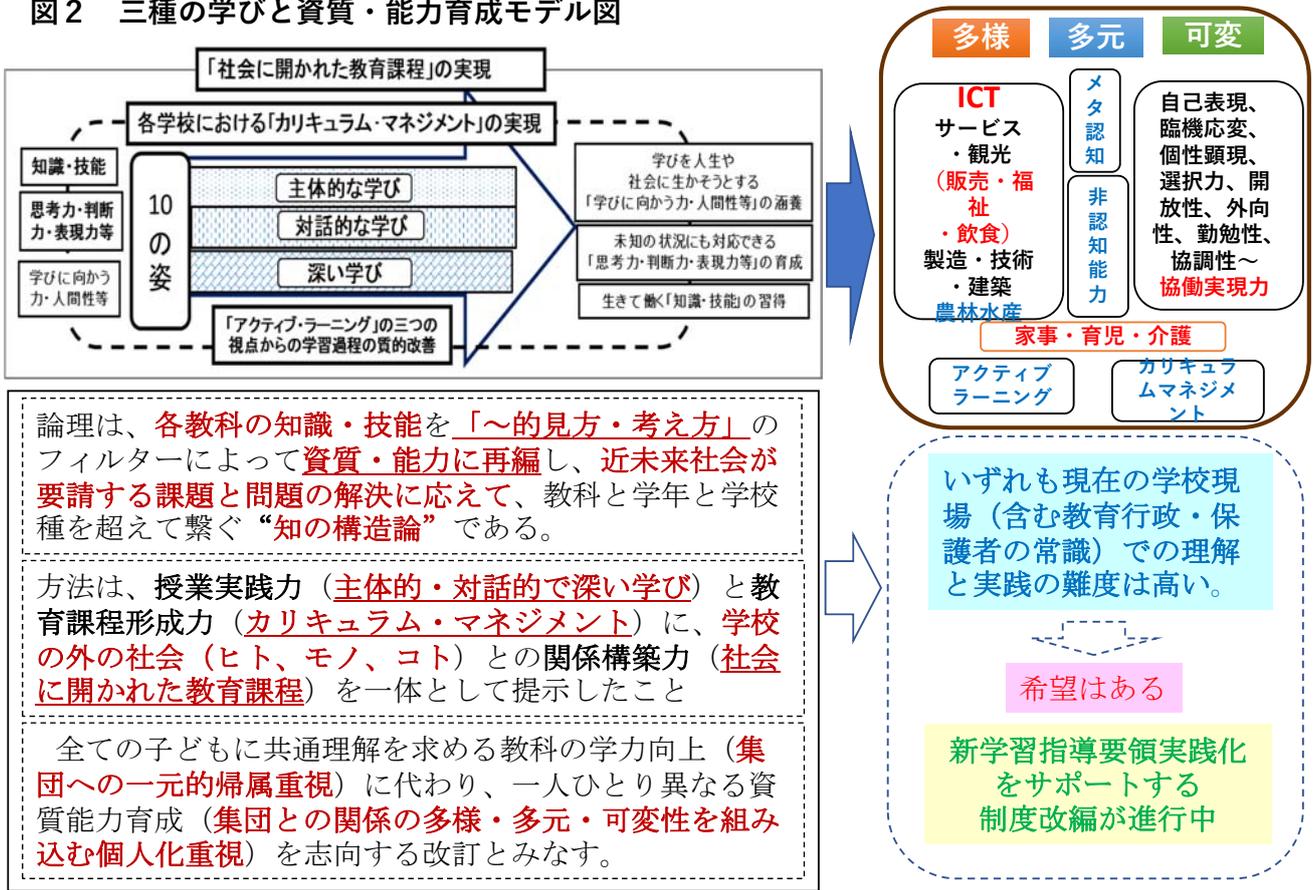
3歳からの幼児教育が学校教育の起点であることが、実践化の方法とともに学習指導要領に明記された意義

図1 幼児期に育てほしい10の姿
 →小・中・高の教科等の教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の連携構想図

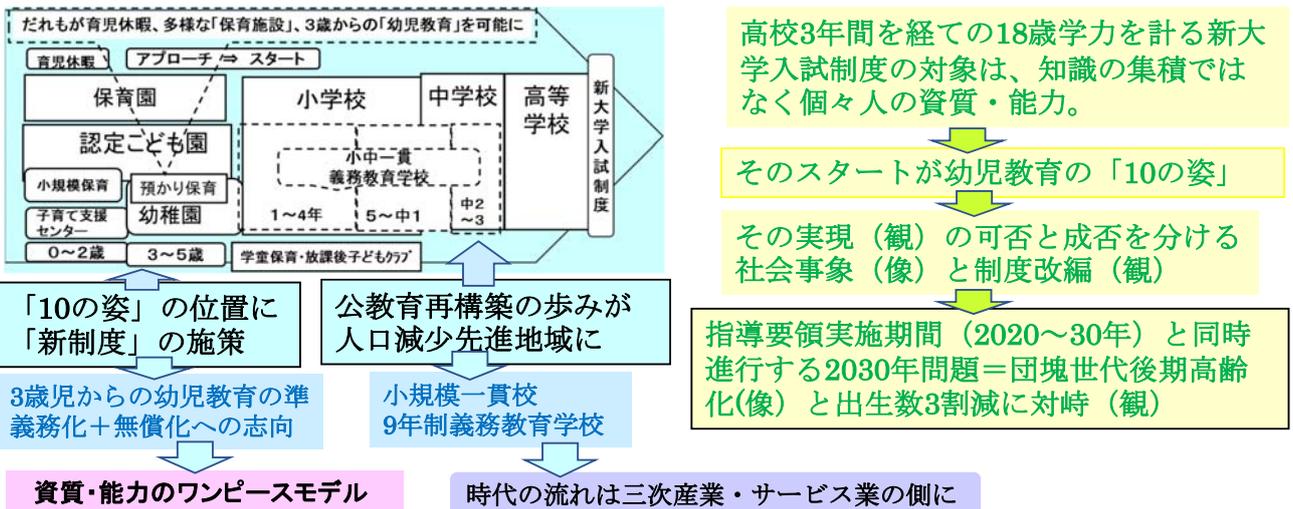


小・中・高の教科等の教科内・教科間と学年内・学校内・学校種間の連携構想図

図2 三種の学びと資質・能力育成モデル図



4 人口減少時代の幼児教育・学校教育制度私見（子ども子育て支援新制度）



この職場に共通するのは、「人との交渉」（対話的）が仕事の大半で、相手の要望に応じる「臨機応変の対応」（主体的）が評価の対象になり、相手の心の変化を先取りする「質の高いサービス＋商品の創案」（深い学び）を日々求められること。そして興味深いのは、（ ）内に付記したように、準備中の新学習指導要領の「開かれた教育課程＋カリキュラムマネジメント＋アクティブ・ラーニング」が志向する子ども個々の資質・能力重視の学びとつながることである。「主体的」で「対話的」とはまさに「ONE PIECE」を貫くコンセプト。深い学びは自立と結ぶ「ONE PIECE」のテーマと重なる。勝者は集団帰属を優先するスポコンではなく、自立志向の「ONE PIECE」側にある。

- ①「おれは剣術を使えねえんだコノヤロウ!!!」
 - ⇒ 世界一の剣豪を目指すロロノア・ゾロ
- ②「航海術も持ってねえし!!!」
 - ⇒ 天才航海士ナミ
- ③「料理も作れねえし!!!」
 - ⇒ 伝説のオールブルーを夢見る料理人サンジ
- ④「ウソもつけねえ!!!」
 - ⇒ ウソと芸術と武器開発の才のあるウソップ
- ⑤「おれは 助けて もらわねえと 生きて いけねえ 自信がある!!!」
 - ⇒ 海賊王を目指す船長ルフィの自己認識

志を共にする仲間だが、能力も夢も性格も全て異なる。だからこそ互いがかけがえのない世界に一つのピースとして教え・学び・助け・支え・補いあって、それぞれの夢（生きる目標）に向かう。

拙稿「今、人気を誇るONE PIECEの魅力」『児童心理』2016.12 金子書房



表3 単独世帯推計 (推計)



年齢5歳階級男女別未婚率

年	2020	2025	2030	2035
単独%	34.4	35.6	36.5	37.2

国勢調査 産業大分類の変遷 2000年 2005年 2010年

サービス業の拡大→分化 (販売・福祉・飲食・教育)

産業	2000年	2005年	2010年
1次産業	農業、林業、漁業	農業、林業、漁業	農業、林業、漁業
2次産業	鉱業、採石業、砂利採取業、建設業	鉱業、採石業、砂利採取業、建設業	鉱業、採石業、砂利採取業、建設業
3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売・小売業、小売業、金融・保険業、不動産業、サービス業、複合サービス事業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業	電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売・小売業、小売業、金融・保険業、不動産業、サービス業、複合サービス事業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業	電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売・小売業、小売業、金融・保険業、不動産業、サービス業、複合サービス事業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業



産業分類	産業特性	関係の特性	人間・集団との関係の特性
1次産業 中心社会	自然の恩恵 農林水産業	地縁・血縁	同質・身分・伝統を前提とした公私未分化の非選択的な人間関係
2次産業 中心社会	自然を克服 鉱工業、建設業	社縁・学校縁	同質・平等・競争・利害を前提とした集団への実質的に非選択的な帰属関係
3次産業 中心社会	1次、2次以外 運輸・通信・サービス	情報・知縁	選択の契機を介在させた部分的人間関係 (横並び階層化or棲分or共生関係)

